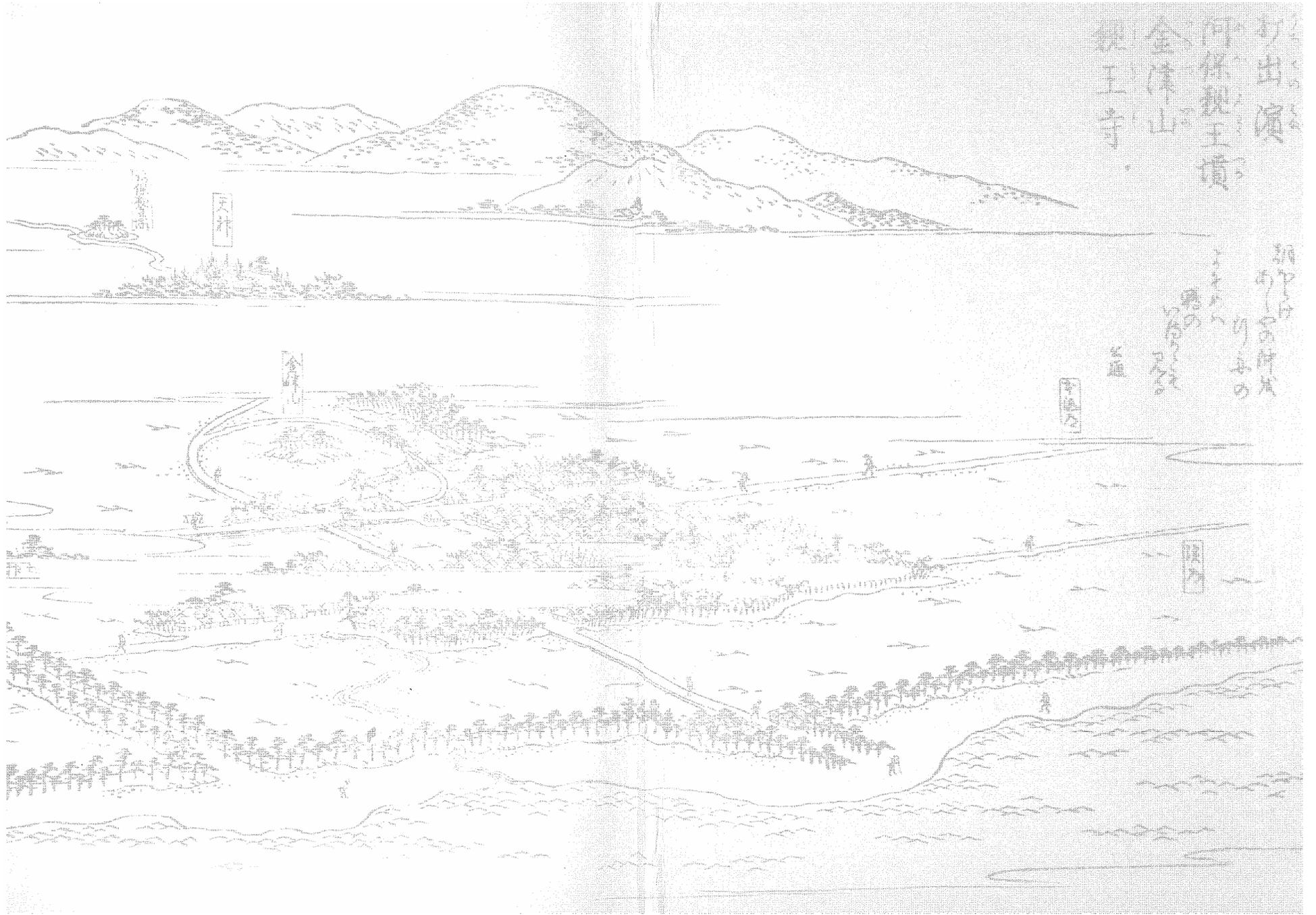


新修
芦屋市史

本
篇



出願
河保親王墳
金津山
親王寺

河保親王
の
墳
の
跡
の
地
の
跡
の
跡

寺

山

特

107

1581

青島市互助會文庫









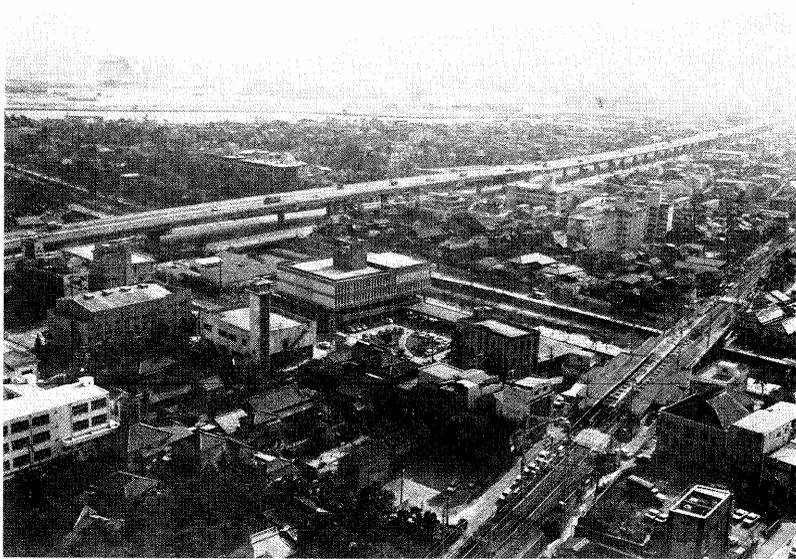
4

市域全景 南方海上からのぞむ



5

市街中心部 芦屋川上空から東方をのぞむ



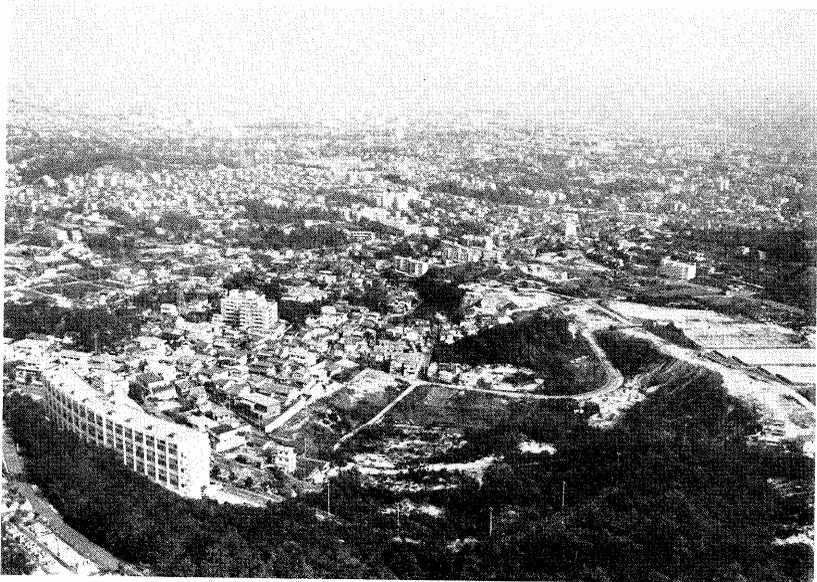
6

市街景観 市役所と第2阪神国道兵庫町高津神戸西宮線をのぞむ



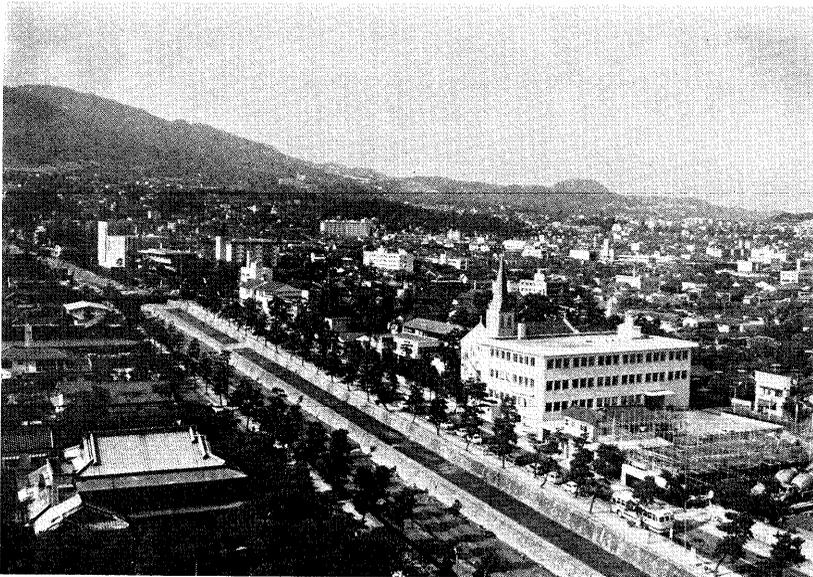
7

市街景観 市中央部



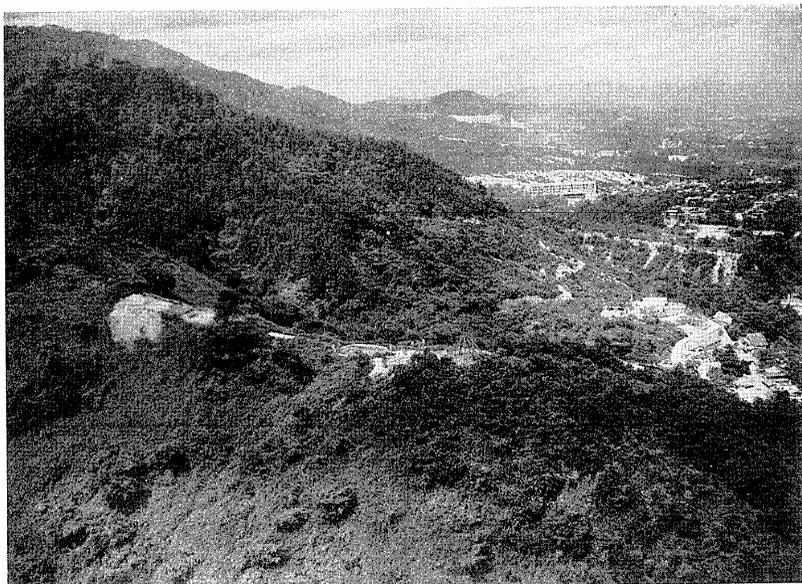
8

市街景観 朝日ヶ丘北部から東南方をのぞむ



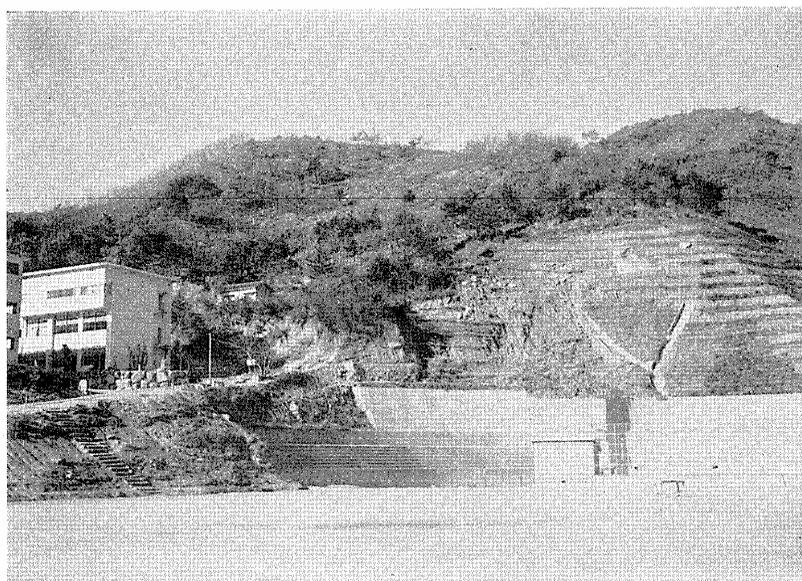
9

市街景観 芦屋川から東北方をのぞむ



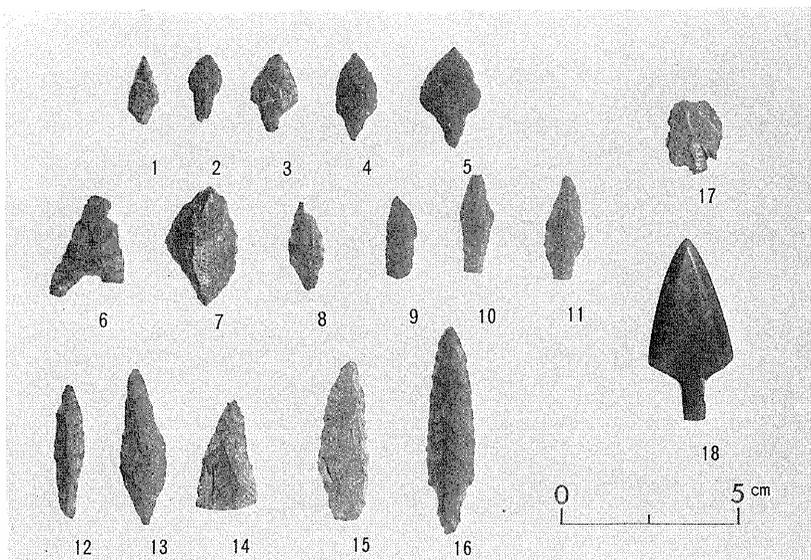
10

空から見た会下山弥生遺跡（西北方からのぞむ）



11

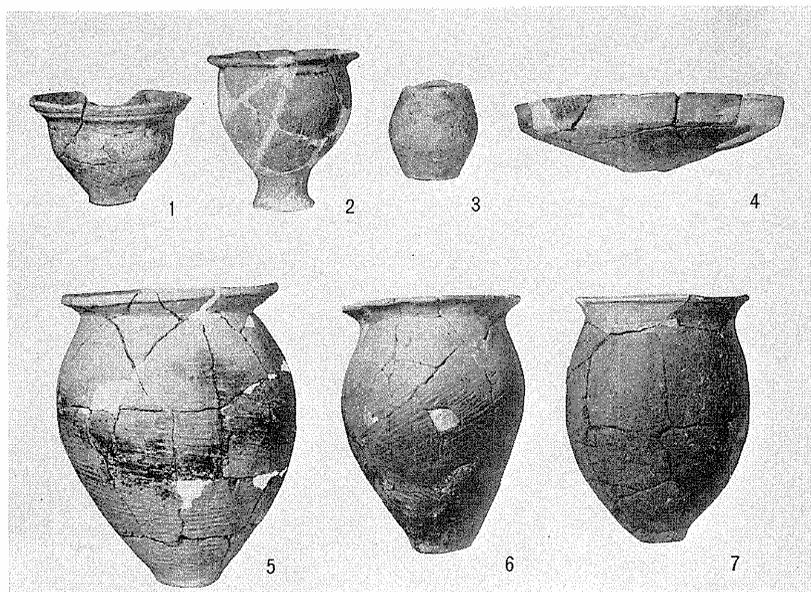
山手中学校庭から見た会下山弥生遺跡



12

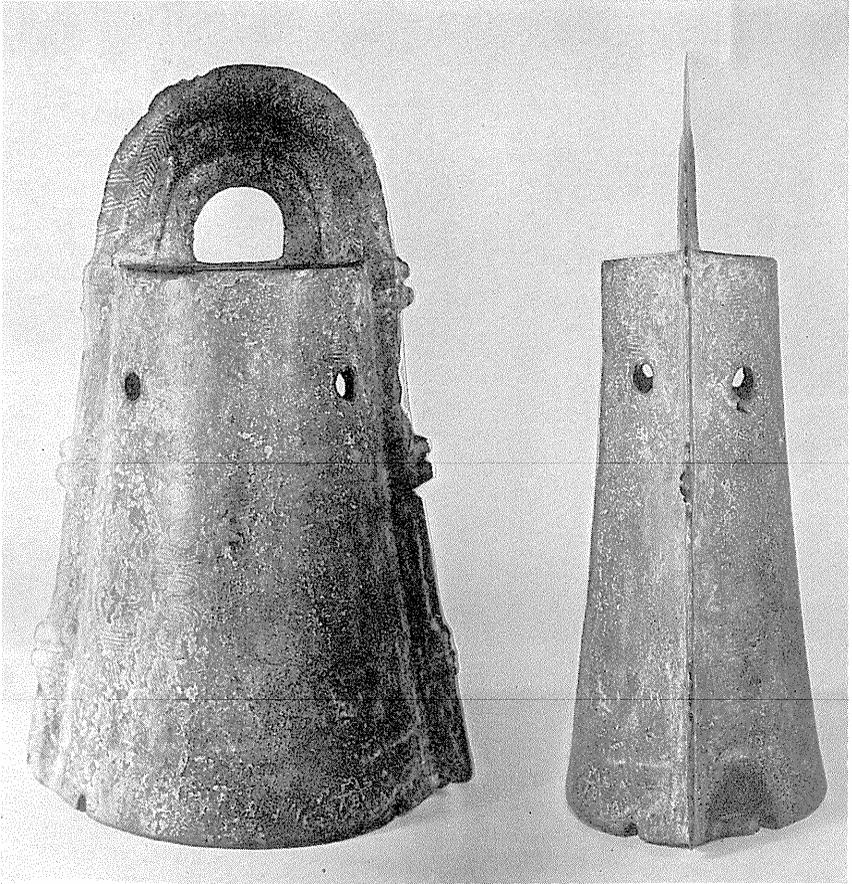
会下山弥生遺跡出土石鏃と銅鏃

1 S祭祀址 2 E住居址 3・8・10・15 J住居址 4・11・12 N住居址 5・7 F住居址
6・9 山手中学校庭 13 L住居址 14 平石ピット 16 C住居址 17・18 F住居址

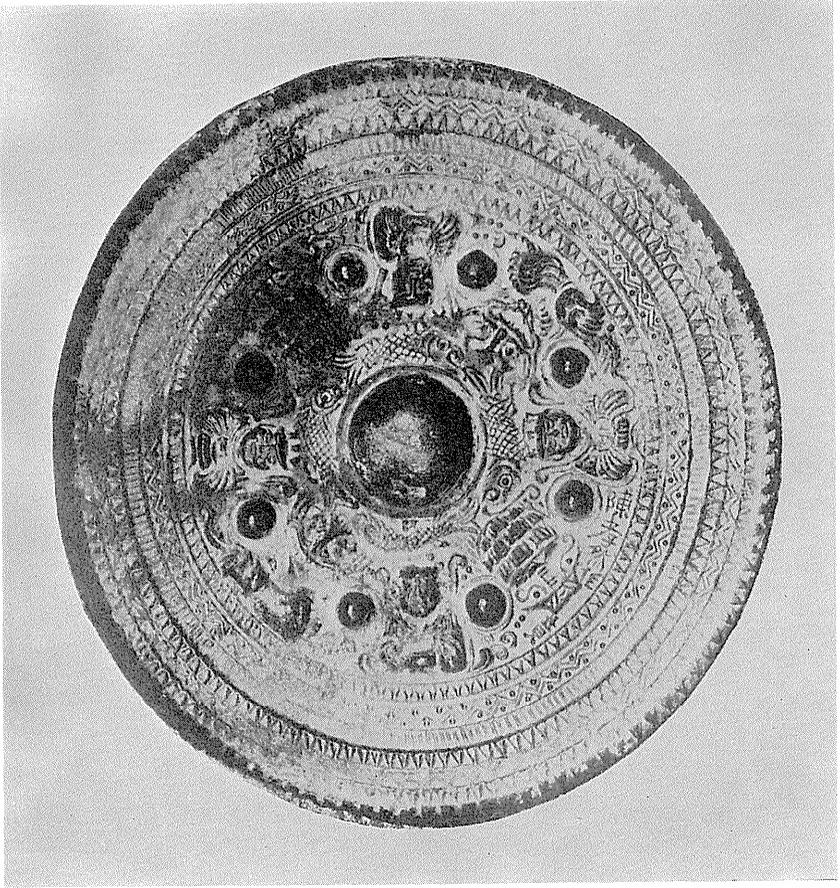


13

会下山弥生遺跡出土土器 1・5 E住居址 2 L住居址 3・4・6・7 Q祭祀址 (約1/6)

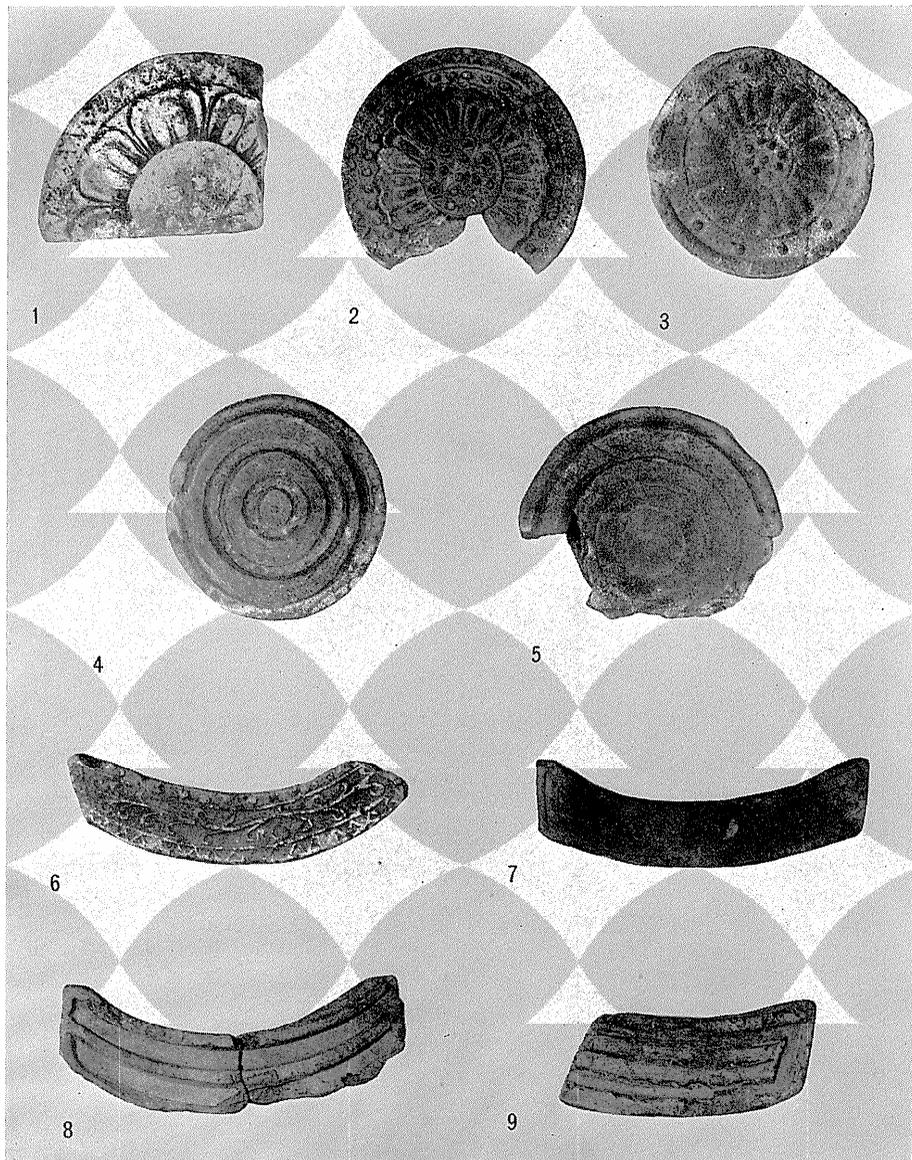


14 打出楠町堂ノ上出土銅鐸 (A面、側面) (親王寺所蔵)



15

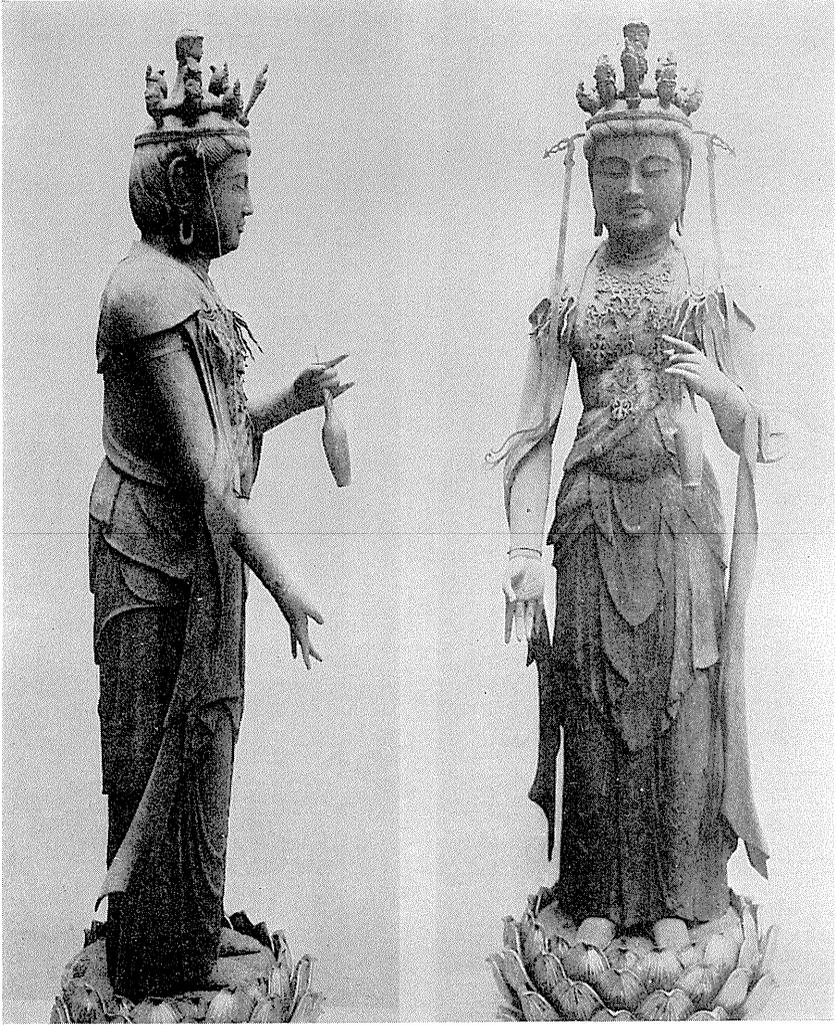
打出出土三角縁神獸鏡（陳孝然作鏡）（聆濤閣旧蔵）



16

芦屋廃寺跡出土瓦

- 1 图124—① (猿丸吉左エ門所藏) 2 图124—② 3 图124—④ 4 图125—①
 5 图125—④ 6 图126—① 7 图126—④ 8 图127—① 9 图127—③



橫濱國元系郡古戸居

貳ヶ村

古戸
古戸

同國武庫郡社家渾

六ヶ村

同國元系郡古戸渾

九ヶ村

古戸

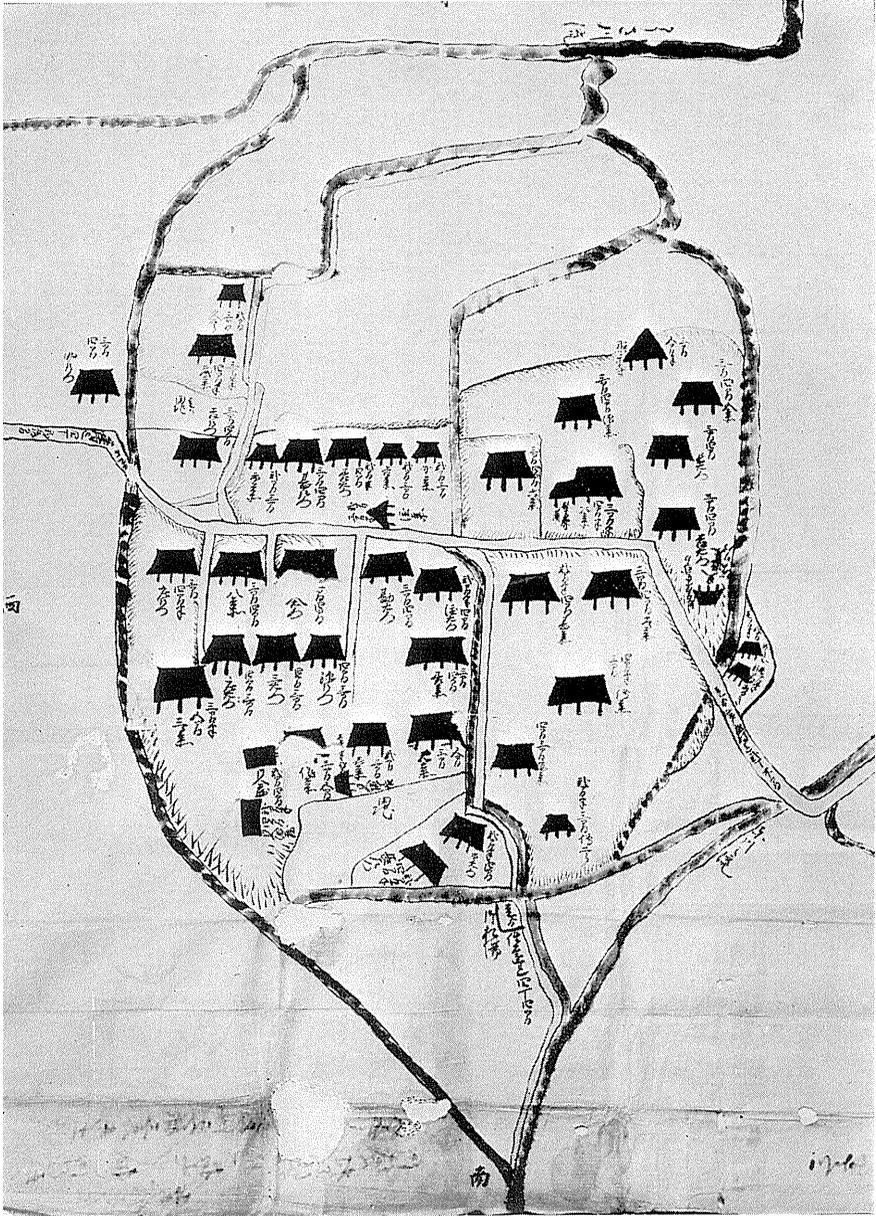
古戸
古戸
古戸
古戸

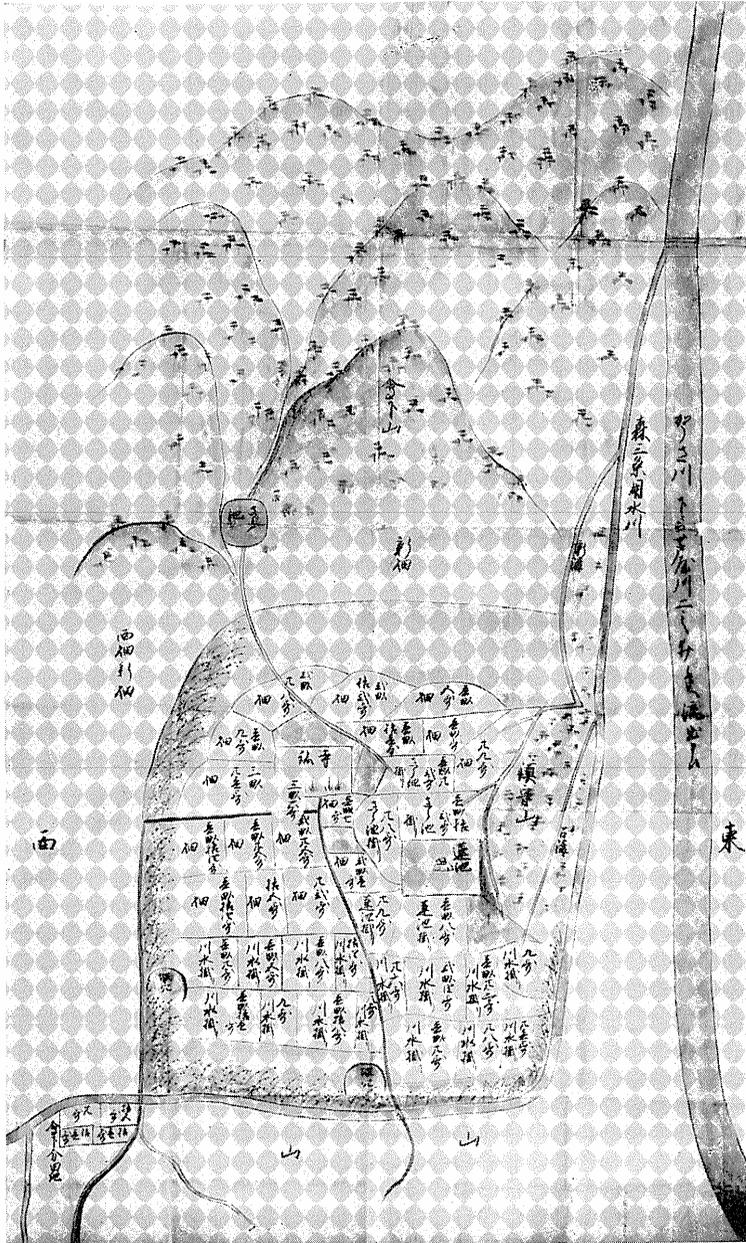
寛延三庚午年二月横濱國元系郡古戸居
古戸村古戸武庫郡社家渾六ヶ村古戸系
郡古戸九ヶ村山論別境古戸境古戸古戸之
繪圖面渾裏書三枚奉成

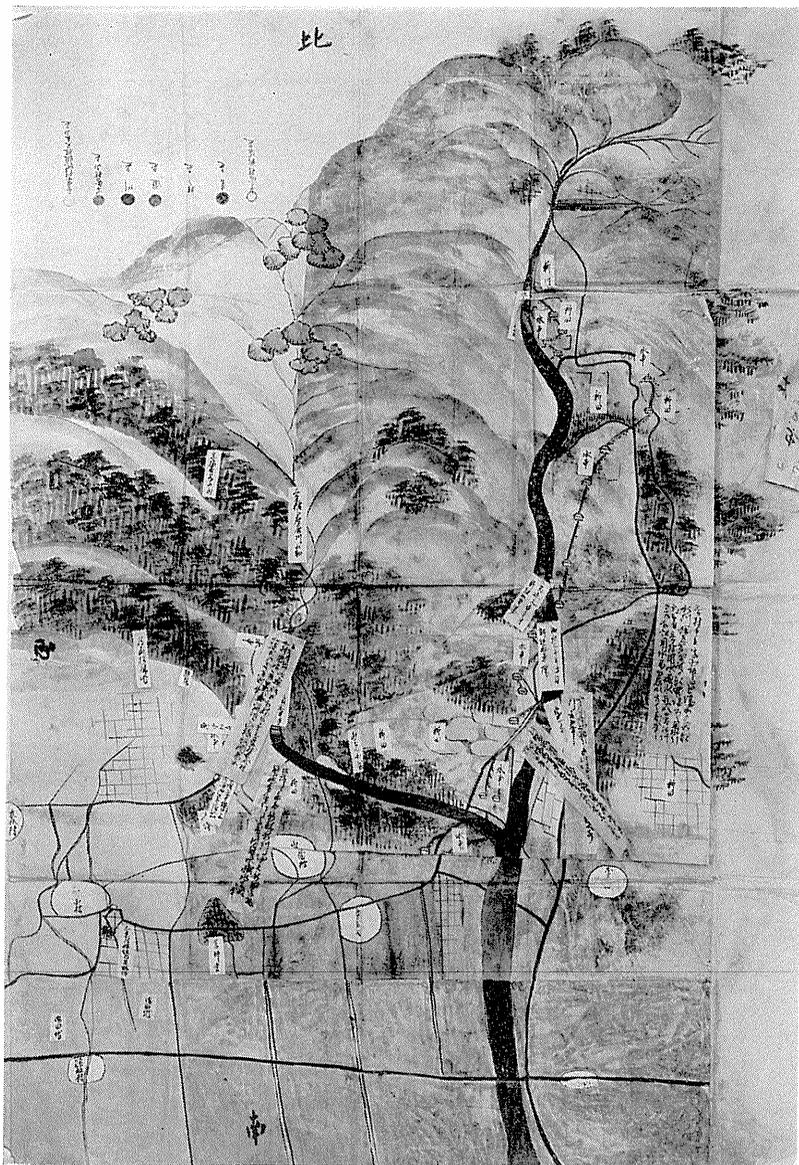
竹垣宮田社家渾

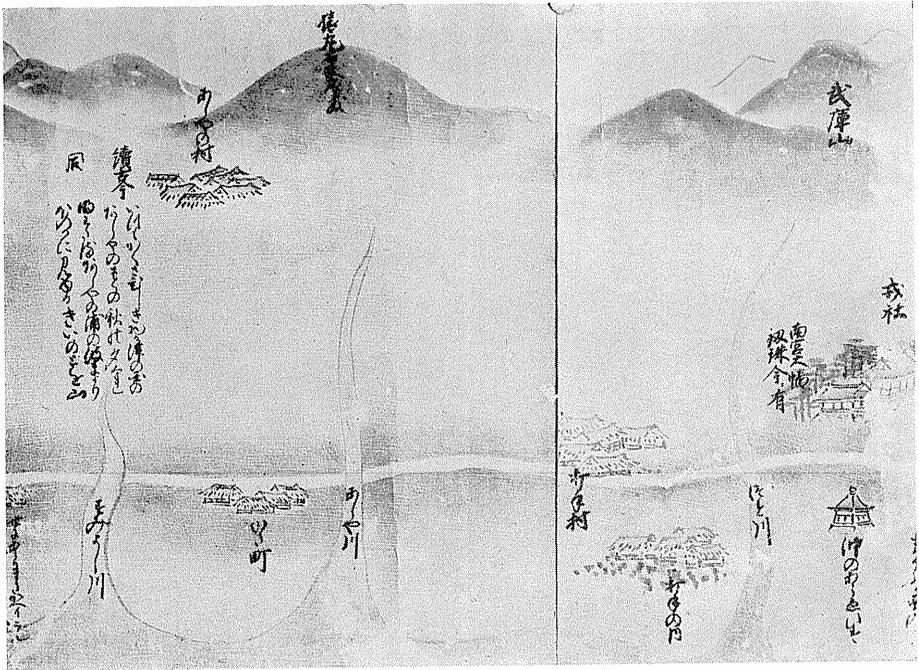
横濱國元系郡

古戸村
古戸村









24 「尼崎より明石に至る海浜の絵図」にえがかれた芦屋地方 (西宮市 広田神社所蔵)



打木宿

尊合郡の時方鳥居真我陳中

とき鉄也式ハとこれよりわ村

株の種やんごう今打木村

下より也やんごうわ村の多

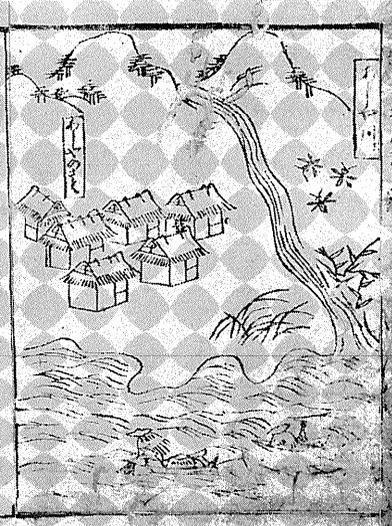
夷船地よりわ村の少種多耶

阿保親王廟下

舟がたての勝唐武の中島

門原を個清湯の山越

花の波西海一也



芦屋里

此亦在東海平藤葉然知

猿丸を史初後久祿有之

而此倉の鉄乃石也藤印之

つ葉乃小橋之石と長谷乃

種も物ららと今分る藤葉

極小初めり藤代里の藤葉

雪小くや中在れ里の葉葉冬

序

芦屋市史の編集事業は去る昭和二十六年、戦後苦難剤なお多い時代に、斯界の權威であつた故魚澄惣五郎博士の適切なご指導を得て、阪神間諸市に先がけて着手し、昭和三十二年に四巻が完成しました。

しかし、十年たつたいま、多くの新史料が発見され、その間における史学の發展もいちじるしいものがあり、また他都市においても、すぐれた専門的な市史の刊行が相つぐようになりましたので、芦屋市史の増補の必要を感じるようになりました。芦屋市史編集のかなめとなるこれら史料の背景には、芦屋の土地で生活した祖先の人びとの喜びや悲しみの心が脈うっており、芦屋市という地域の特色を示す貴重な文化遺産といえます。

今日のように急激な社会の進展によつて生ずる文化財の散逸を防ぐためにも、また将来への發展的施策の上からも、市の歴史を再認識することはたいせつなことと

考えられます。

幸い市民をはじめ、歴史研究者、研究機関などから市史の再刊を求める希望も多く、たまたま市制三十周年を迎える機にふさわしい記念事業として、市史編集を實施することになりました。当初は増補改訂版として刊行する予定でありましたが、執筆を担当された先生方の学問的良心により、全編書き改めて装いも新たに「新修 芦屋市史」として刊行することになりました。

本書が将来とも郷土芦屋の理解に役立ち、地方史研究の一助にもなれば幸いです。おわりに、編集事業にあたって市議会のご賛同と、編集委員としてご尽力下さいました武藤誠・有坂隆道・末中哲夫・村川行弘各先生をはじめ、執筆にご苦勞下さいました諸先生方、その他史料の提供など関係者のご協力に対して厚くお礼を申し上げます。

昭和四十六年十一月

芦屋市長

後辺万寿郎

凡例

一、本巻は昭和四十五年十一月十日をもって市制実施三〇周年を迎えた本市が、記念として編さん刊行する市史本篇である。

一、本市はすでに昭和三十一年十一月「芦屋市史」本篇一卷を刊行している。本巻はその編集方針を継承しているが、その後発見された幾多の新史料、調査発掘がおこなわれた遺跡よりする新知見ならびに社会の進展をふまえ、今日の時点に立つて執筆したので、全く新しい装いの通史となった。よって既刊の芦屋市史と区別するため「新修芦屋市史」本篇とよぶこととした。

一、本巻は武藤誠が監修し、編集委員有坂隆道・末中哲夫・村川行弘が執筆に当たった。なお、第一章は前田昇、また第五章第六節(四)は上井久義、第六章第三節と第七章第九節(一)(二)は橋本征治、第七章第七節(一)と第九節(三)(四)は末尾至行、同第七節(二)と第八節は武藤直の諸氏の執筆をわずらわせた。

一、本文の記述は、原則として当用漢字・現代かなづかいを用いた。ただし、引用文・学術用語など、通読の便宜上かならずしもこれにしたがっていない場合もある。

一、西暦年号を適宜付記して読者の便をはかった。

一、本文中では、原則として氏名の敬称を省かせていただいた。
 一、本市史の編集に当って資料の長期貸出しをはじめ諸種の便宜と教示を賜わった各位に対し、深甚の謝意を表す。

一、通史の性質上、史料の引用をできるだけ控え、また止むを得ず記述を省略した事項も多い。年表、索引も紙幅の関係から収めることができなかった。これらについては、本巻につづいて編集中で、刊行企画をすすめている資料篇に抛らきたい。

一、題簽は旧版芦屋市史を監修された故魚澄惣五郎博士の筆になる旧版芦屋市史の題簽を用いた。
 一、終りに、市史編集室諸氏の労苦、また関係諸官庁および市各部局の協力に対して感謝申し上げます。

昭和四十六年十一月

芦屋市史編集専門委員

武	有	末	村
藤	坂	中	川
	隆	哲	行
誠	道	夫	弘

新修 芦屋市史 本篇

目次

総説

芦屋の自然環境(一)……原始・古代(二)……中世(三)……近世(四)……近代(五)……現代(六)

第一章 芦屋の自然環境

第一節 位置と気候……………九

市域とその位置(一)……瀬戸内式の温和な気候(二)……背山の影響をうける風向(三)
第二節 地質と地質系統……………一八

芦屋地方の地質系統(一)……お多福山古生層(二)……六甲山地の花崗岩(三)……花崗岩の風化(四)……大阪層群(五)……段丘礫層(六)……沖積層(七)……地質構造(八)

第三節 地 形……………三二

地形の特徴と地形区(三二)……………六甲山地(三四)……………六甲山地の風化と地形(三六)……………山麓の洪積台地(三五)……………海岸平野(四三)	四四
第四節 地形発達史 — 芦屋の自然史 — ……………	四四
六甲準平原の形成(四四)……………六甲山地の形成と大阪層群の生成(四六)……………氷河時代の芦屋(四九)……………台地の形成(五二)……………縄文海進と海岸低地の修蝕(五一)	五三
第五節 植生と自然の災害……………	五三
芦屋川流域の林相(五三)……………背山の起伏と若返り河川の芦屋川(五四)……………昭和の大水害(五七)……………海岸侵蝕と防潮堤の完成(六一)	六三
第二章 考古学上からみた芦屋	六三
第一節 無土器時代の芦屋……………	六三
日本の旧石器(六三)……………芦屋市出土の旧石器(六四)……………朝日ヶ丘出土のブレイド(六四)……………芦屋周辺の旧石器(六五)	六六
第二節 縄文式文化期の芦屋……………	六六
新石器文化(六六)……………縄文人の生活と文化(六七)……………朝日ヶ丘町の縄文遺跡(七一)……………《石器》	六六
《土器》《土層と遺構》……………周辺遺跡との関係(八〇)……………その他の縄文時代の遺物(八二)	六六

第三節 弥生式文化期の芦屋……………八五

弥生式文化の時代(八五)……………周辺の弥生前期遺跡(八八)……………《上ノ島遺跡》《田能遺跡の溝》……………弥生中期の生活と文化(九二)……………弥生中期の周辺遺跡と社会のうごき(九三)……………弥生時代の青銅器(九五)……………《銅鐸》《青銅利器》《銅鏡》《銅劍》《銅劍鑄型》……………芦屋市出土の銅鐸(九五)……………弥生後期の文化と周辺の遺跡(一〇二)……………《田能遺跡》……………会下山遺跡(一〇九)……………《会下山遺跡の遺構》《会下山出土の遺物》……………会下山遺跡の意義(一一三)……………芦屋市内の弥生遺跡(一二五)……………《打出岸造り遺跡》《城山遺跡》

第四節 古墳時代の芦屋……………一三七

古墳時代の概観(一三七)……………前期の古墳と周辺の遺跡(一四二)……………中期の古墳と周辺の遺跡(一四二)……………芦屋市内の中期古墳(一四五)……………《金津山古墳》《親王塚古墳》《親王塚出土遺物》《その他の遺跡》……………後期の古墳と周辺の遺跡(一五〇)……………芦屋市内の後期古墳(一五〇)……………《八十塚古墳群》《朝日ヶ丘古墳群》《劔谷古墳群》《三条古墳群》《三条遺跡》《城山古墳群》《旭塚古墳》《その他の遺跡・遺物》……………考古学上からみた芦屋(一八二)

第三章 古代の芦屋

第一節 大和朝廷の成立……………一八五

四世紀の日本(一八五)……………大和朝廷の動揺(一八七)……………古文献にみえる摂津(一八九)……………大和朝廷と

芦屋(一九二)	
第二節 律令時代の芦屋	一九三
中央政界のうごき(一九三)……律令制下の社会(一九五)……条里制と芦屋地方の条里遺制(一九九)……	
菟原郡の四至(二〇二)……賀美郷と葦屋郷(二〇八)……芦屋駅と古代の交通(二〇八)……菟原郡の	
船戸(二二二)……芦屋地方の古氏族(二二二)……葦屋蔵(二二二)	
第三節 芦屋 廃寺	二一四
平城京の時代(二二四)……芦屋廃寺の立地(二二六)……芦屋廃寺の伝承(二二八)……芦屋廃寺跡発見	
の経過(二三〇)……芦屋廃寺跡の発掘調査(二二二)……芦屋廃寺跡の出土遺瓦(二二七)……芦屋廃寺	
跡出土の土器とその他の遺物(二三六)……周辺遺跡との関係(二三八)	
第四節 平安京の時代	二四〇
平城京から平安京へ(二四〇)……平安京と芦屋(二四二)……在原業平と芦屋(二四二)……阿保親王と	
芦屋(二四五)……摂関政治と荘園(二五二)……芦屋周辺の荘園(二五三)……武士の出現(二五三)……平氏	
政権と福原遷都(二五五)……古代の終末と芦屋(二五七)	
第五節 文学にあらわれた芦屋	二五七
葦屋菟原処女の伝承(二五七)……猿丸大夫と芦屋(二六〇)……歌名所としての芦屋(二六二)……神宮	
寺の十一面観音(二六六)	

第四章 中世の芦屋

第一節 鎌倉時代の芦屋地方……………二六三

源平合戦と芦屋（二六二）……………蒙古襲来と摂津への影響（二六五）……………叡尊と芦屋（二六八）……………悪党の活躍（二七〇）……………兵庫関乱入事件と芦屋地方の悪党（二七一）……………打出の悪党・後藤右衛門尉（二七五）

第二節 南北朝内乱と芦屋地方……………二七七

要衝の地、芦屋（二七七）……………元弘の乱と芦屋地方（二七九）……………建武の争乱と打出合戦（二八二）……………足利尊氏・直義の打出浜合戦（二八四）

第三節 芦屋地方と荘園……………二八六

荘園制の進展と葦屋荘（二八六）……………皇室領葦屋荘（二八七）……………北野社領蘆屋荘（二八九）……………神祇伯家と蘆屋（二九〇）

第四節 戦国の世と芦屋地方……………二九三

応仁の乱と摂津（二九三）……………鷹尾城と芦屋河原の戦い（二九五）……………瓦林対馬守政頼と鷹尾城（二九八）……………松若物語（三〇二）……………足軽合戦（三〇五）……………芦屋庄と本庄・西宮との山論（三〇八）

第五節 文学にあらわれた芦屋と中世の遺跡・遺物……………三一〇

歌名所としての芦屋（三一〇）……………謡曲『雲林院』と『藤栄』（三二四）……………芦屋廃寺の中世遺構と遺跡

第五章 近世の芦屋

瓦(三二五)……鷹尾城(三二〇)……石祠(石がん)(三二二)……一石五輪塔(三三三)……有銘石材(三四)……
 ……板碑(三四)……石造定印阿弥陀像(三四)

第一節 近世芦屋の成立と幕藩体制下の領主……………三二五

織田信長と摂津(三五)……豊臣秀吉と摂津・芦屋地方(三五)……統一の完成と大閤検地(三三三)
 ……江戸幕府の成立と芦屋地方(三七)……幕藩体制下の領主たち(三四)……《尼崎藩主戸田氏
 鉄》《尼崎藩主青山氏》《尼崎藩主松平氏》……明和六年灘筋村々の上知(三五)

第二節 大阪城と芦屋……………三五四

織田信長と石山本願寺(三五四)……豊臣秀吉と大阪城(三五五)……豊臣氏の滅亡と大阪落城(三六〇)
 ……徳川氏の大坂城修築(三六六)……《第一回工役》《第二回工役》《第三回工役》……現存大阪城
 の石垣調査(三六三)……採石地芦屋と市内の刻印石(三六七)……大阪城石材採石場の発見(三七〇)……
 ……芦屋からの採石大名(三七五)

第三節 幕藩制支配機構と租税制度……………三八〇

一 支配機構

將軍・大名と農民政策(三八〇)……尼崎藩の地方支配機構(三八三)……郡右衛門・大庄屋(三八四)……
 ……庄屋(三八七)……年寄(三八九)……百姓代(三九一)

二 租制制度

檢地(三九五)……石盛(三九七)……免(三九九)……免定・免割(四〇四)……本途物成と延口米(四二〇)……
郷払いと石代納(四二二)……小物成(四二四)……高掛物(四二六)……国役(四二六)……夫役・助郷(四二八)
……村入用(四三〇)

第四節

村落構造の変遷

……………四三二

一 村高の変遷と新田開発

村高の変遷(四三三)……《芹屋村》《打出村》《三条村》《津知村》……新田開発(四三五)……《芹屋村》
《打出村》《三条村》

二 身分構成

本役・半役(四三六)……屋敷持百姓(四三五)……柄在家(四四一)……隠居・下人(四四四)……ありき・山
番・樋守(四四七)

三 階層分化

近世前期の階層構成(四四八)……階層分化の原因(四五〇)……田畑の売買(四五二)……戸口の変遷
(四五三)……百姓持高の変化(四五七)……家格・身分制の動揺(四六五)

第五節

村落経済の発展

……………四六九

一 山野利用の推移

旧慣行の容認(四七〇)……領主権の確立(四七一)……御用林の設定(四七三)……村落の利用権(四七五)……

：入会山の分割支配 (四七七) …… 梅谷の割山支配 (四七〇) …… 入会地から私有地へ (四八二) …… 利用 権の売買 (四八三) …… 山野の争論 (四八四) …… 寛保の山論 (四八四) …… 延享・寛延の山論 (四八六) ……	《杜家郷の主張に対する裁定》《本庄九か村の主張に対する裁定》《芦屋二か村に対する裁定》 …… 芦屋二か村の勝訴 (四八九)
二 水利と水論	天正十七年の芦屋川分水 (四九〇) …… 東川用水仕法の推移 (四九三) …… 貞享四年の番割り仕法 (四九三) …… 畦垣内の分水石利用 (四九六) …… 畦垣内用水の分水刻割り (四九七) …… 一の井手取水の 刻割 (四九九) …… 一の井堰立会普請村々の確立 (五〇二) …… 溜池の利用 (五〇六)
三 産業	菜種 (五〇八) …… 絞油水車 (五一二) …… 菜種の売払いと国訴 (五三三) …… (1) 文化二年の国訴 (五二五) …… (2) 農民の勝訴 (五一八) …… (3) 国訴に至る村々の動向 (五二九)
第六節 村民の生活	五二三
一 村落自治の展開	幕藩制支配と村落自治 (五三三) …… 村極め・村掟 (五三六)
二 寺院と神社	寺院統制と宗門改 (五三二) …… 芦屋村の寺社 (五三三) …… 《法恩寺》《長福寺》《天神社》 …… 打出村 の寺社 (五三五) …… 《妙覚寺》《親王寺》《照善寺》《明覚寺》《天神社と観音堂》《岩ヶ平天神社》

《徳本上人の布教》……三條村・津知村の寺社(五三八)……《照樂寺》《宗円寺》《八幡宮》《日吉神社》

三 信仰と社会生活

本庄九か村の氏神と三條・津知村(五四二)……三條村の八幡宮と宮座(五四四)……芦屋村の天神社と宮座(五四六)……講集団の盛行(五四九)……御蔭参り・御蔭踊り(五五二)……飢饉凶荒と雨乞い(五五三)

四 芦屋地方の民俗

生業と年中行事(五五五)……葬送儀礼(五六二)……儀礼伝承と組織(五六三)

第七節 近代への動き……………五七一

一 幕末の世情

一般の動き(五七二)……摂津地方の動き(五七三)

二 摂海防備と芦屋

朝廷の動き(五七〇)……打出陣屋(五七八)

第六章 近代の芦屋

第一節 明治維新と芦屋地方……………五八三

一 行政制度の変革

兵庫鎮台・兵庫裁判所(五八三)……版籍奉還・廢藩置県(五八四)……区制(五八五)……区制の廃止と

戸長役場(五八七)……町村会の設置(五八九)

二 地租改正

壬申地券(五九〇)……地租改正(五九一)……山林原野の地租改正(五九四)……壬申戸籍と徴兵制(五九六)

……《壬申戸籍》《徴兵制》……学制頒布(五九八)……《精道小学校の設置》《小学校令の改正》

第二節 精道村の成立と発展……………六〇二

一 自治の発達

町村制の施行(六〇一)……精道村の誕生(六〇二)……村会と議員・村長(六〇三)……郡制の変遷(六〇五)

……区長の設置(六〇七)……役場の新設(六〇八)

二 交通通信機関の発達

国鉄の開通と芋屋の石材(六〇九)……芋屋駅の設置(六一三)……阪神・阪急電車の開通(六一五)……

里道の整備と道路交通(六一六)……郵便局と郵便(六一〇)……電報と電話(六一二)

三 村勢の発展充実と住宅地芋屋の形成

住宅地芋屋の形成(六一三)……地目変換からみた住宅地化(六一四)……山地の住宅化(六一五)……戸

口の増加(六一五)……電灯の供給と普及(六一三)……消防(六一四)……警察(六一八)……衛生施設の概要

(六一五)……塵芥焼却場(六四〇)……塵芥汚物の定期取集(六四一)……村営火葬場(六四二)……上水道と

下水道(六四三)……米騒動と恤救基金の設置(六四五)……災害(六四六)……産業(六五二)

四 村財政の変遷

明治期の村財政(六五三)……大正期の村財政(六五五)……昭和期の村財政(六五七)……村財政構造の

時代別変遷(六五八)

五 教育と文化

明治・大正期の教育(六六五)……昭和期村制時代の教育(六七〇)……幼稚園(六七三)……実業補習教

育と青年訓練所(六七四)……青年学校(六七五)……公会堂(六七〇)……村営遊園地(六七八)……神社合祀

(六七九)……寺院その他(六八二)……各種団体(六八二)……《青年団体》《婦人団体・その他》

六 精道村の閉幕

第三節 芦屋の農業・水産業の変容……………六八五

一 明治期における土地所有と農業形態

明治期における土地利用(六八五)……明治期における土地所有(六八五)……共有・公有形態のさま

ざま(六八九)……農家の増加と農家構成(六九二)……農産物・農業経営(六九二)

二 耕地整理期における土地所有と農業形態の変化

耕地整理の実施(六九七)……耕地整理の内容(七〇二)……土地利用の変化と農地所有規模の縮小

(七〇四)……土地所有規模(七〇八)……農家構成の変化・農産物(七二〇)……山林の利用など(七二四)

三 精道村時代の水産業(七二六)

第七章 芦泉市のあゆみ

第一節 芦屋市の誕生……………七二三

市制施行(七三三)……市会議員選挙(七三五)……三役の就任(七三五)	
第二節 戦時下の市民生活	七二六

市の機構(七三六)……戦時財政(七三六)……増徴(七三五)……貯蓄(七三三)……経済(配給)生活(七三五)……	
… 動員の諸相(七三六)……体力の保持(七四一)……防空と警防(七四一)……町名改正・地番更正の実	
施(七四一)……青年教育(七四九)……学徒動員(七五〇)……学童疎閉(七五〇)……空襲(七五五)	
第三節 復興と市民	七五八

一 米軍政下の芦屋

終戦(七五〇)……進駐(七五〇)……住宅の接収(七五九)……終戦処理と市政(七六〇)……終戦直後の市民	
生活(七六〇)……教育(七六六)	

二 地方制度の改革

市長・議員の公選(七六六)……《市議会》《市長》《選挙管理委員会》……市政機構(七七二)……自治体	
警察と自治体消防(七七二)……隣接地域合併構想(七七五)……(イ)一市一町二村合併のうき (ロ)一	
市二町三村合併の構想 (ハ)一市二村合併……国際文化住宅都市建設法の成立(七七九)……西宮	
市との境界問題(七八〇)	

三 「市民憲章」と新しい街づくり

市民憲章(七八三)……市民文化賞の制定(七八六)……諸計画事業の推進(七八六)……(イ)新市庁舎の建	
設 (ロ)住居表示 (ハ)北部土地区画整理事業 (ニ)「芦屋背山グリーンベルト」(ホ)中部土地区画	

整理事業 (ハ)道路舗装と治安灯 (ホ)上水道 (ヘ)下水道 (ロ)公園緑地 (ヲ)芦屋市霊園

四 国際交流

都市提携(七九三)……ユネスコ活動(七九六)

第四節 戦後の教育……………七九八

一 学校教育

学制改革(六・三制)の実施(七九八)……地方財政と六・三制(八〇〇)……学校給食(八〇三)……P T

A(八〇四)……教育委員会(八〇五)……教育研究所(八〇七)……学校施設の拡充(八〇八)……県立芦屋高

校(八一〇)……私立学校(八一〇)……〈芦屋学園〉〈甲南学園芦屋校舎〉……海技大学校(八一〇)……兵

庫県警察学校(八一三)

二 社会教育

社会教育行政(八二二)……市立図書館(八二四)……公民館(八二五)……社会体育(八二六)……青少年対策

(八二七)……社会教育関係団体の活動(八二八)……市民会館(八三〇)……〈地区集会所〉……『芦屋市

史』の刊行(八三二)……文化財の保護と研究(八三三)……〈調査と指定〉〈保存と公開〉〈財団法人黒

川古文化研究所〉〈滴翠美術館〉

第五節 財政の推移……………八二五

地方財政の改革(八二五)……芦屋市の財政(八二六)……(1)赤字累積期 (2)財政再建

第六節 社会福祉と生活環境……………八三二

社会福祉(八三三)……………生活保護(八三三)……………国民健康保険(八三九)……………国民年金(八四〇)……………保健衛生
 (八四〇)……………〈県立芦屋保健所〉〈市立芦屋病院〉〈健康センター〉……………体育と施設(八四一)……………環境
 衛生(八四二)……………〈施設〉〈環境衛生協会〉〈清掃事業〉……………公害問題の発生と現状(八四九)……………同和
 対策事業の促進(八五〇)

第七節 人口の動きと住宅事情……………八五八

一人 口

総人口の推移(八五九)……………町別人口の推移(八五九)……………人口密度と人口重心(八六〇)……………男女別人口
 (八六一)……………年齢別人口(八七〇)……………出生地別人口(八七二)……………転出・転入人口(八七四)……………産業別人口
 (八七五)……………職業人口(八七七)……………流出人口(八七九)……………流入人口(八八三)……………外国人(八八八)

二 住宅都市芦屋の現況

住宅都市化の進展(八八八)……………住宅地の拡大(八九一)……………戦災の復興と戦後の宅地造成(八九七)……………
 第二次世界大戦後の住宅地化(九〇一)

第八節 交 通……………九一一

市内の交通網(九一一)……………通勤輸送の変遷(九一五)……………〈通勤人口の増加と鉄道旅客輸送の発達〉
 〈バス交通の発達〉……………戦後の通勤輸送(九二二)……………市内のバス交通(九二七)……………道路交通(九三二)……………
 ……〈東西の幹線道路〉〈山陽新幹線芦屋工区〉……………街路網の整備(九三三)……………〈芦有道路の開通〉

第九節 産 業……………九四一

一 戦後の農業

農地改革の実施（九四二）……芦屋市の農地改革（九四二）……農地の買収と売渡し（九四三）……農地調整法と農地・農業委員会（九四六）……〈農地委員会〉〈農業委員会〉……統制・供出・農業改良など（九四九）……〈食糧統制と供出〉〈農業改良〉……農業協同組合・農業共済組合など（九五四）……宅地化による農耕地の減少（九五五）……旧階層別にみた土地所有の動態（九五八）……経営規模と就業構造の変化（九六一）……〈経営規模の変化〉〈就業構造の変化〉……農業経営の変化（九六五）……〈作目変化〉〈作付状況〉〈農業装備〉……林野の利用（九七二）

二 市制実施後の水産業

漁法の展開と労働力（九七〇）……〈漁法の変化〉〈漁船・漁撈構成〉……漁家数・漁獲高・漁船など（九七〇）……漁業協同組合・共同網など（九八〇）……〈芦屋漁業協同組合〉〈漁港新設要請〉〈共同網〉……水産加工業（九八二）

三 商業

芦屋市の商業構造（九八三）……小売店の分布（九八四）……商店街・市場の成立（九八六）……スーパーマーケットの出現（九八九）……各小売業組織の商勢の消長（九八九）……商店街・市場の商圏（九九三）

四 工業

芦屋市工業の位置づけ（九九六）……工業事業所の類別構成（九九六）……工業事業所の規模別構成（九九七）……工業の分布（九九八）……業種別の立地（二〇〇〇）……工業の二面性（二〇〇〇）……経営規模上位の工業事業所（二〇〇二）

第一〇節 芹屋市の今後……………一〇〇三

あとがき……………一〇〇九

巻頭函版・本文函版・表・付図目次……………巻末

見返しは摂津名所図会（寛政十年刊）からとった。